

リサーチグループの名称			ヘルスサービスリサーチ		
リサーチグループの名称(英語)			Health Services Research		
名前	所属部局	職名	専門	学位	役割分担
田宮 菜奈子	医学医療系	教授	ヘルスサービスリサーチ	医学博士	代表者
大久保 一郎	医学医療系	教授	保健医療政策学	博士(医学)	臨床経済学の視点から
徳田 克己	医学医療系	教授	生活支援学, 障害理解学	教育学博士	生活支援学の視点から
川口 孝泰	医学医療系	教授	環境看護学	博士(工学)	人間工学・環境看護学の視点から
玉岡 晃	医学医療系	教授	神経内科学	医学博士	神経内科学の視点から法医学の視点から
本田 克也	医学医療系	教授	法医学	医学博士	法医学の視点から
松村 明	医学医療系	教授	脳外科学	医学博士	脳血管障害の急性期の視点から
竹田 一則	人間系	教授	小児内科学, 障害学	博士(医学)	障害学の視点から
本澤 巳代子	人文社会系	教授	家族法, 社会保障法	法学博士	法学の視点から
森田 展彰	医学医療系	准教授	社会精神保健学	医学博士	社会精神保健学の視点から
武田 文	体育系	准教授	健康社会学	保健学博士	健康社会学の視点から
水野 智美	医学医療系	准教授	生活支援学	博士(学術)	生活支援学の視点から
高橋 秀人	医学医療系	准教授	疫学, 生物統計学	博士(学術)	統計・疫学の視点から
山海 知子	医学医療系	准教授	疫学・保健統計学	医学博士	公衆衛生学の視点から
柏木 聖代	医学医療系	講師	ヘルスサービスリサーチ	博士(保健学)	保健学・看護学の視点から
福島 敬	医学医療系	講師	小児内科学	医学博士	小児内科学の視点から
山岸 良匡	医学医療系	講師	社会健康医学	医学博士	社会健康医学の視点から

キーワード(5つまで)	介護	医療	福祉	保険制度	質評価
キーワード(英語)	long-term care	health care	welfare	insurance system	quality assessment
研究グループHP	URLを記載してください。 http://www.md.tsukuba.ac.jp/hsr/				
研究グループ概要(100字程度)					
本プロジェクトの目的は、世界的な人口高齢化という課題に対し、世界一の長寿国である日本が直面する保健医療福祉サービスの課題を科学的根拠に基づき実証分析し、その成果を国内外に情報発信し、今後の改革の方向性を示すことである。さらに、それを活用し現場の質の向上を図るため、地方行政や現場との共同による質向上のための保健医療福祉サービスの総合評価拠点を形成を目指す。					
研究グループ概要(英語)					
The purpose of our project is to analyse the quality of the health services for sustaining Japan's health and welfare system, and supporting the increasing number of elderly people. We provide both professional information and specific suggestions to policy makers. Our research unit not only studies the organization of the medical care field, but we also study it from multidisciplinary viewpoints such as policy, law, economics, sociology, anthropology and so forth. We incorporate effectively the results of these different disciplines in order to achieve better medical services for all people. We also aim to help transmit the success of these disciplines within the country and abroad. With this, we improve the quality of service "achieving medical care in harmony with life".					
設置の目的及び必要性					
世界に先んじて超高齢化の進む日本の保健医療福祉サービスの動向は世界の関心の的となっている。われわれは、筑波大学ヘルスサービスリサーチユニットとして、これまでの保健・医療・福祉ごとの分野別のアプローチの限界を超え、ヘルスサービスリサーチという学際的かつ包括的な「新しい」アプローチで取り組み、その成果を国内・外に発信していく。日本で生じている課題、特に高齢者に対する医療・介護の問題は同時に先進諸国共通の喫緊の課題でもあり、常に着目されている。だからこそ、日本がこれまで経験したことを実証し、その成果を世界で共有することが重要である。本研究プロジェクトでは、申請者(代表者)がこれまで公的研究費などによって基盤を築いてきた保健医療福祉サービスの総合評価のための以下のデータベースを基に学際的かつ国際的視野から実証研究を行い、ヘルスサービスの向上に寄与することを目指す。その結果、得られる知見は日本がグローバルヘルスにより積極的かつ戦略的に貢献する知的基盤ともなりうる。さらに、これらの成果は一括してまとめ、現場の職員にわかりやすく提示・配布し、アウトカム評価結果を活用しフィードバックできる(PDCAサイクル: Plan Do Check Act)システムを形成することを目的とする。					
研究計画					
本研究で扱うアウトカム指標は、疫学的に全サンプルから得られる数値尺度評価と、特定のイベントを分析するsentinel event評価のそれぞれ以下の指標である。カッコ内に使用予定のデータを示す。 数値尺度評価として、 ① 要介護度の変遷および生命予後(介護保険制度導入から継続整備してきた某市全員約1200人の介護給付費請求書データベース、アンケート調査および死亡データによる) ② 米国高齢者施設アウトカム監査項目: MDSによる24のQuality Indicator(一療養型医療施設900床入所者の過去8年のMDSデータベース) ③ Quality Indicatorの施設別頻度、看護・介護人員配置(介護サービス施設・事業所調査、平成13年度、15年度、2次データ利用による分析) ④ 介護負担感およびサービス利用満足度(某市の介護保険利用者および家族調査データ600人分) ⑤ 施設内転倒頻度(老人保健施設3施設の過去5年間の転倒記録入力済み) ⑥ 在宅療養・介護の実態状況とその支援に関連する要因(つくば市高齢者福祉計画策定に係るアンケート調査 平成20年度、23年度調査) ⑦ 介護時間、女性の喫煙と健康、不定愁訴、障害、生活保護(国民生活基礎調査データ) ⑧ 要介護度の変遷およびサービス利用(全国介護給付明細書データ 2001年5月から2009年4月までの96ヶ月分) ⑨ 介護事業所の経営状況(介護事業所経営実態調査、平成17年度、20年度調査) ⑩ 高齢者の人的・経済資源に対する公的介護保険の導入効果(日本の65歳以上人口を対象とした日本大学総合学術情報センター「健康と生活に関する調査」データ平成11年11月、平成13年11月の調査データ) sentinel event評価として、 ① 介護サービス関連法医学剖検記録・異状死体発生数(過去5年分データベース化済み) ② 介護サービス関連判例(判例CD-ROM) <24年度>まず、国の調査データの使用期限を鑑み、これまで整備してきた各尺度のデータ(特に、厚生労働省から提供を受けているデータ)について、学術的なそれぞれ研究チームを構築し、実証分析を進めていく。そして、その結果を学術論文にまとめ、国際誌への投稿を通じて、成果を広く公表することを目指す。 <25年以降>これまでの研究成果の発展:学術的研究に基づく根拠のある保健医療福祉サービスの評価拠点をめざす観点から、引き続き内外の文献レビューを最新の研究を含めて把握しつつ、学術論文作成を進める。 WEBサイト「保健・医療・福祉評価フォーラム(仮題)」、ニュースレター作成、WEB配信および配布:厚生労働科学研究費補助金等により作成したアウトカム指標の分析結果を公表するためのWEBサイトをさらに充実させる。米国での先駆的取り組みを参考にしつつ、学術的価値を高めつつ、同時に現場へのフィードバックできるものを目指す。					
研究・教育に期待される効果(箇条書き)					
本事業の結果、得られる知見は、国内だけでなく、日本がグローバルヘルスにより積極的かつ戦略的に貢献する知的基盤ともなりうる。さらに、これらの成果は一括してまとめ、現場の職員にわかりやすく提示・配布し、アウトカム評価結果を活用しフィードバックできる(PDCAサイクル: Plan Do Check Act)システムの形成にも貢献できる。					

研究プロジェクト計画の概念図

保健・医療・福祉サービスの質向上のための包括評価の枠組み —アウトカムを中心とした実態評価から改善へ—

評価の視点	数値尺度								Sentinel Event 評価		質の向上のためのシステム	
	施設ケアにおけるアウトカム評価		介護のプロセス評価		地域ケアにおけるアウトカム評価				法医学・法学におけるイベント評価		法律・制度の視点から	
内容	Quality Indicator (英国監査)による測定	転倒記録の分析(方法・文献レビューから)	ハンドル形電動車利用の安全性	不穏状態の事前予防	介護度の変化	施設入用率	在宅継続期間	システム全体の評価	介護者家族の介護に対する負担	法医学の視点から	法学の視点から	質の保障のための仕組み
	老人保健施設におけるケアのアウトカム評価<1>老人保健施設におけるアウトカム指標の分析(全国108施設における調査から)<2>老人保健施設における転倒の評価指標に関する文献的考察	ハンドル形電動車利用している高齢者の事故およびヒヤリ・ハット体験に関する分析	不穏状態の判定手段として用いる非観血的バイタルサインング技術のための基礎研究	中等度要介護者における要介護度変化に関連する在宅サービス利用頻度に関する研究	高齢者の personal competence と転倒、高齢者施設への入用に関連する要因	家族介護者同士の在宅サービス利用高動機における在宅継続に関連する要因(介護保険給付レセプトを用いた分析から)	本開発大介護費用削減の予測因子に関する研究	介護保険による在宅サービス受給者の家族介護者の負担的感覚に関連する要因	アウトカム評価における法医学の役割に関する研究(高齢者虐待死における消化管疾患事例からの考察)	実体調査(アンケート)からみた悪性新生物終末期ケアの問題点	わが国における福祉・介護サービスの質向上のための Sentinel Event 評価— 障害をもつ子どもとその家族にかかわる判例から—	日本における高齢者虐待への法的対応と介護政策上の課題、ならびに虐待・暴力法例の各国比較からみえた課題に関する研究

ヘルスサービスリサーチを通じた生活の質向上の実現
医学研究に学際的視点を加えた実証研究によるQOLの向上を目指す

